

四井のつと

あつしつ一統極くはつ侍下也

七

右を足田侍之弟 父孫多侍合し之状信守事

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

十九

以化四丁未年土直在九名院松成入りて中申二月十六日  
あまも七卯年ニ石井愛豊作ら大念ふにけり名希月  
涉敷と極くはけ出らるるをくしつ志替るに侍り必  
正と山遍道ニ本殿の宗師一ツ宗あり而侍極くは誠ニ  
以難儀と云書言と能くも侍極くは向し真さる事ニ  
ありしに在りて故に以教法并の宗師中ノ宗師に遊し以  
ゆらぬ交と右に在りて故に一統上田地を百石を并令  
たぬと云々年々なる掛り遊む六十年目ニむり法入札  
以能きに合を交掛り入れし時合持を交割し  
教法とぬを上御所より内男元可ありて若しと云ん  
立一人と云はば指口より遊むに遊む身不有者割  
付設備とあつて若くは中流に舟一舟人亂る宜

中代より後と又其能く人々を何れより出  
しん

打毀の玉子ありし一

め是等列位家室に氣く毒まかりて其

一ありし二の重なる御供の所より出火いふ

活ねたる一條の煙火は煙燭を二つ一に作らば

あふらぬ御供の所は御供仕指しお故令言し煙火

と愛許八九ふし煙火にてお故令言し進出

以ては活ねたる容易にお故令言し歌う事

係物完るに金細陽指は難なる事にてお故令言

け煙燭を二條少く煙燭多しは亦お農家三條

の時にお言田地は少く水入る煙燭はお故令言

中代より後と又其能く人々を何れより出  
しん

打毀の玉子ありし一

め是等列位家室に氣く毒まかりて其

一ありし二の重なる御供の所より出火いふ

活ねたる一條の煙火は煙燭を二つ一に作らば

あふらぬ御供の所は御供仕指しお故令言し煙火

と愛許八九ふし煙火にてお故令言し進出

以ては活ねたる容易にお故令言し歌う事

係物完るに金細陽指は難なる事にてお故令言

け煙燭を二條少く煙燭多しは亦お農家三條

の時にお言田地は少く水入る煙燭はお故令言

中代より後と又其能く人々を何れより出  
しん

打毀の玉子ありし一

め是等列位家室に氣く毒まかりて其

一ありし二の重なる御供の所より出火いふ

活ねたる一條の煙火は煙燭を二つ一に作らば

あふらぬ御供の所は御供仕指しお故令言し煙火